

前日からの天気予報は下り坂でしたが、朝は思いのほか晴れ間がのぞきました。集合時には初めての参加者も加わりました。しかし歩き始める頃には日差しはなくなり雲の厚みが徐々に増して1時間ほどで雨が降り始めました。

里山の家での持ち込み観察項目：オオスズメバチのオスとメス、ジャコウアゲハの蛹、灯火採集の標本箱、ツマグロキチョウ、セアカゴケグモ

ミノウスバがマサキに集まっていました。昼間に活動するガの仲間です。この時期に雌雄が交尾、産卵して卵で越冬します。マサキのわきの草むらで子どもたちがチカラシバ下から上に穂をしごき取るように指を動かして種の部分を集めました。マサキの上の方までカラスウリが伸びて赤い実をたくさんつけていました。



ミノウスバ



チカラシバの穂を集める



カラスウリの実

ツチイナゴは成虫で冬を越します。この日はツチイナゴ以外のバッタ類はほとんど見かけませんでした。飛んでいる昆虫も少なかったのですが、子どもがヒメアカネを捕らえました。腹部の赤みが濃く「きれい」と感心する参加者の声が聞かれました。ナナホシテントウが2頭、同じ1株のヨモギにとまっていた。



ツチイナゴ



ヒメアカネ



ナナホシテントウ

地面から15cmほどのところにオオカマキリの卵囊が見つかりました。近くのムクゲの木にはムネアカハラビロカマキリの卵囊がついていました。また同じ枝に、ヤガ科のオオアカキリバの幼虫がついていました。



オオカマキリの卵囊



ムネアカハラビロカマキリの卵囊



オオアカキリバの幼虫

子どもがカラスウリの実から黒く熟した種を取り出しました。変わった形の種で子どもたちはカマキリの顔みたいと言っていました。ヌルデの虫こぶ、ヌルデミミフシを観察すると中にはヌルデシロアブラムシのおびただしい数の成虫がひしめいていました。この時期に虫こぶから旅立ちコケに移動して冬を過ごします。



カラスウリの種



ヌルデの虫こぶ



ヌルデシロアブラムシ



この季節のひつつきむしである**キンミズヒキ**と**オオオナモミ**を観察すると、どちらも実の周りの突起の先端がカギ状に曲がっていることがわかりました。以前の自然観察会でよく花や実を観察した**クコ**は、いつの間にか草刈りの時に刈られてしまっていたのですが、この日ひこばえが育っているのが見つかりました。



キンミズヒキ



オオオナモミ



クコのひこばえ

タラヨウは実が赤く熟していました。先月に続き、子どもが**葉の裏に字を書**いていました。**コカマキリ**を見つけた子どもがいました。同定の決め手は前脚の内側にある模様と言われ、みんなで観察しました。



タラヨウの実



タラヨウの葉に字を書く



コカマキリ

続いて**トゲナナフシ**を見つけました。この森では少し珍しい昆虫です。樹皮に溶け込む体色で、動きはゆっくりでした。中道を進むと、南側にたくさんの**キクイモ**が見られました。つどいの丘では**エノキ**が**黄葉**しているのを見ました。黒くなった実もついていました。**ムクノキ**にはエノキよりも大きい実がついていました。こちらは食べられると聞き、多くの参加者が食べて「おいしい」と言っていました。このあたりで雨が本降りになってしまい、傘を持っていない参加者が多かったため観察会はここで切り上げることになりました。帰り道では**ジュズダマ**と**アキノレ**の実を早足で見ました。つどいの丘で観察したエノキとムクノキは以前はアキノレと同じニレ科とされていましたが、今はアサ科に分類されているそうです。アキノレは実の形状が上記の2種とは全く異なっていました。11時10分頃に里山の家に戻りました。



トゲナナフシ



キクイモ



エノキの黄葉



ムクノキの実



ジュズダマ



アキノレの実

平和公園での観察項目(観察順): ミノウスバ, マサキ, カラスウリ, ツチイナゴ, ヒメアカネ, ナナホシテントウ, オオカマキリの卵囊, ムネアカハラピロカマキリの卵囊, オオアカキリバの幼虫, カラスウリの種, ザリガニの毘, ヌルデの虫こぶ, ヌルデシロアブラムシ, キンミズヒキ, イセノナミマイマイ, オオオナモミ, タラヨウ, クコのひこばえ, コカマキリ, トゲナナフシ, キクイモ, コバネイナゴ, アキノノゲシ, ヒメジョオン, シンジュキノカワガの繭, エノキの黄葉, ムクノキの実, ジュズダマ, アキノレ, キマダラカメムシ, クサギカメムシ